

令和 2 年 網走市議会
新 庁 舎 建 設 特 別 委 員 会 会 議 録
令和 2 年 2 月 18 日（火曜日）

○日時 令和 2 年 2 月 18 日 午前 10 時 00 分開会

○場所 委員会室

○議件

1. 新庁舎建設に係る調査研究について
2. その他

○出席委員（8 名）

委 員 長	近 藤 憲 治
副 委 員 長	川原田 英 世
委 員	石 垣 直 樹
	栗 田 政 男
	立 崎 聡 一
	永 本 浩 子
	松 浦 敏 司
	山 田 庫 司 郎

○委員外議員（1 名）

議 長	井 戸 達 也
-----	---------

○傍聴議員（4 名）

小田部 照
金 兵 智 則
平 賀 貴 幸
古 田 純 也

○事務局職員

事 務 局 長	大 島 昌 之
総務議事係長	高 畑 公 朋
総務議事係主査	寺 尾 昌 樹

午前 10 時 00 分開会

○近藤憲治委員長 おはようございます。

ただいまより新庁舎建設特別委員会を開会いたします。

本日の議件でございますが、1 項目でございます。新庁舎建設に係る調査研究を続行してまいります。

本日の内容でございますが、前回までの委員会内で各委員の方々に御議論いただきました中身を、3 月の定例会内で中間報告を行うべく、正副委員長素案を作成させていただきました。

中身につきましては、お手元に配付の資料に記載をさせていただいておりますけれども、新庁舎建設の必要性、位置、規模、機能、財源について、これまでの議論の経過を取りまとめさせていただいているところでございます。

多くの委員の方々の共通認識が構築されている部分につきましては、そのような記載内容になっておりますし、まだまだ見解に隔たりがある部分につきましては、両論併記のような形で記載をさせていただいているところでございます。

本日の委員会の進行ですが、中間報告の素案をもとに御意見を出していただきまして、3 月の議会に向けての中間報告として取りまとめる作業を進めてまいりたいというふうに考えております。

それでは、この素案につきまして御意見等がございましたら御発言をいただきたいと思っております。

いかがでしょうか。

○石垣直樹委員 5 番の財源の部分でございますが、現在、国の庁舎緊急保全債がございます。

これを使うのか、使わないのか、50 億という高額になるため、できれば使ったほうがいいと思うのですけれども、スケジュール的に考えて、この財源を使って庁舎の建てかえをするのか、しないのかというところを皆さんで見解の一致を図りたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○近藤憲治委員長 ただいまの石垣委員からの発言は、財源項目にもう少し具体的な書き方をしてはどうかという御意見でございました。

まずは、皆さん初見でありますので、それぞれ思うところもあるかと思っておりますので、まずは御意見を出していただいて、議論を深める部分は深めてまいりたいと思っておりますので、そのほかの委員の方いかがでしょうか。

この中間報告の素案について。

○松浦敏司委員 今、石垣委員のほうから国の財源ということで、その点では、ある意味一致するのだと思うのです。網走の行政の財政状況を見ても、大変な部分はあります。

ただ時間が余りにも、いわゆるあと 1 年、およそ 1 年 1 ヶ月ぐらいしかない中で、場所を本当に決めて、実施設計に着手というのが、そこがやっぱり最

大の問題で、場所が決まらないうと実施設計もつくれないうことですから、そういう意味では、言わんとすることはわかるのですけれども、何とも場所が決まらないうと、それ以上進まない部分があるので、それはそれとして大事だけれども、私はやはり市民が本当に欲しいと思う庁舎をどこの場所にどうつくるかという、ここが非常に大事だというふうに思うので、そういった国の財源も重視しつつ、そこにだけ捉われると、市民の本当の意味での使いやすいう庁舎、あるいは職員にとって使いやすい庁舎という点で、どうなのかなというがあるので、そういう意味では、この間の美幌の取り組みなんかも、網走からするとやっぱり取り組みが早いですね。

そして、いろいろな形で本腰を入れた取り組みをしているという点でも、学ぶべきことがあったなというふうに思ったりして、そんなことで、私なりの見解としてはそういうふうに思っています。

○立崎聡一委員 私も個人の意見ということで述べさせていただきますけれども、ある意味財源で言いますと、やはり当市の状況を考えますと、厳しいものがあるのだろうというふうに思います。

そんな中で、やはり使えるものは使ったほうがいいというふうに私も思います。

先日は美幌のお話も聞かせていただきました。

もちろん、美幌町もいろいろな財源を使って、きちっと対応されているということを見ると、僕も石垣委員と同じなのですから、財源をある程度きちっと示した上で説明していくという方向でよろしいかと思います。

○永本浩子委員 財源ということで、私も本当に今回の予算を見ても、残っている市債のほう当初予算よりもはるかに多いという、今の市の現状ということを見ると、結局この新庁舎に余りお金をかけ過ぎると、私たちのこの後の世代に対する借金をまたふやしてしまうことになってしまうということを一歩ちょっと懸念するところでありまして、やはりこの網走市にとって約10億というのは大変重いものがあるのではないかなと思っています。

この間、美幌の話も聞きまして、環境に配慮したということで、いち早く着手をして、補助金もかなりいただけた。

ちょっとおくれをとってしまうと、今度は同じレベルだと3分の2から3分の1になってしまうという、そういう中ではありますけれども、美幌は本当に町民とのやりとりとか、そういったことがほとん

どない中で、非常にスピーディーに構想から着工まで進んでいるという、だから時間をかけたからいいのかと言えば、そうでもないのかなという印象を、私はこの間の美幌の説明を聞きながら感じたところであります。

将来に対する負担がやはり大きくならない道を、これから少子化で本当に納税者が少なくなっていく中で、大きな負担を残さないという観点は大変大事なところかと思しますので、ぜひそこはとっていただければと思っています。

○山田庫司郎委員 皆さんが言うことを私も十分理解します。

網走市の財政状況の現状を考えますと、私も厳しい認識は、一時期より約200億円ぐらい減ってきたということは事実ですけれども、いろいろな比率見ても、いまだに厳しい状況というのは私も認識をしています。

ただ、庁舎の問題について私が思っているのは、やっぱり5カ所の比較検討をしてラルズ周辺跡地ということで、市のほうから市民含めて私たちにも話があった経緯があるわけですから、その中身は、市有地をまず使って、仮に建設費が50億かかれば約2割ぐらいの10億の交付税に対する支援があるということで、これが大きいということで、市のほうからの説明があったわけですが、これを考えますと、例えば庁舎の建設地というのは、財源だけを考えたなら、もう今の場所しかなくなってしまうということに導かれるということには私はなと思っていますし、ただ防災の視点をしっかりすることになれば、高台地区というふうに、二者択一が迫られているのかというふうに思いますけれども、そこは二者択一ではなくて、永本委員からもありましたように、確かに後世の人たちに10億を、仮に財源を使わない形に結果なったとしたら、後世の人たちに大変な負担をかけるのではないかと、逆も考えた場合、今のラルズ周辺跡地がどうかという議論をしていますけれども、本当に使いやすい、将来の人たちが使い勝手のいい庁舎ということになっていくのかどうかも、その視点も考えなければならぬかなと、こんな思いもしていますので、今の時点で財源を使いますということになれば、今の場所しかなくなると思いますよ。

ここの部分も、市の考え方は、言葉は悪いですが余計なお金は使わない考えで一貫してきていますから、だから現在地を使うとなると、壊す部分が必要

なのか今の空いている駐車場に建てられるのかを議論しなければならないと思います。

あまり狭めるということが本当に、市民にとっていいのか、そこをやっぱり考えるのであれば、石垣委員から出た一つの方向性を示すということはいいいのかもしれませんが、私はまだ無理があるというふうに思います。

○永本浩子委員 今、山田委員からも話があったとおり、私も防災ということを考えると本当に悩むところで、ラルズ跡地が100%いいと思っている人は多分誰もいないと思うのですね。

ただ釧路の防災庁舎を視察してきて、こういう建て方をすれば、網走の場合は津波というよりは、むしろ激甚化している台風とか、そういった大雨による浸水とかということのほうがちよっと大きいのかなと思うのですけれども、釧路の防災庁舎の建て方をすれば、1階はもう水が浸かるものと想定をして、下をほとんど駐車場にして、2階から上にして、2階と3階の間に中間免震を入れて、地震が来ても3階以上は守られるという、そういう建て方をしているわけなのですけれども、ああいって建て方を取り入れれば、例えば駐車場が今の駐車場のスペースとほぼ同じということで、今でもただでさえも狭くて使いづらくて、冬になるととめられところもぐっと減ってくるということで、ただその1階を駐車場にも使えるような形に持っていけば、駐車場の部分も少しクリアできるのかな、そして防災に関してもある程度の防災の指揮拠点としての担保もとれるのかなという思いはしているのです。

そしてまた、これからだんだんICTとかそういったものを使うようになると、北見ももうそろそろ始まるようですけれども、わざわざ市役所まで来なくても、住民票とかそういったものが、コンビニとかそういうところでとれるようになったりする時代が少なからず近くにくることを考えると、市役所の規模というのも、少しコンパクトでもいいのではないかなという気はしています。

○松浦敏司委員 今の金市館跡地周辺ということを見ると、やはり皆の意見が一致するのは狭いという問題があるということです。

使いやすさという点では、やっぱり駐車場が非常に使いにくい、それと何といても周りに事業者が営業をしているというふうになっていて、いわゆる国道に面するところは、民間の駐車場並びに空き地、それから建物が建っているという点で、おのず

と庁舎を建てるところは決まっていると、何と言いますか、限界があると言いますかね。

それで、5条の道路を全部なくすというふうになってしまうと、結局、丹羽歯科医院のところの狭い道路を中心として出入口になってしまうのだろうなというふうに素人なりに感じたわけです。

それで、釧路の例も永本委員から出されましたけれども、釧路の地形といいますと、高いところもあることはあるけれども、そうそう市庁舎が建つような空き地があるのかどうか、ちょっと僕も詳しくはわかりませんが、網走の場合は高台地区に一定程度の空き地があるという点で考えると、やっぱり防災上、高いところを考える必要があるのだろうというふうに思います。

財源ありきで言えば、確かに先ほど山田委員が言われたように、今の金市館跡地周辺しか間に合わないということになってしまいますから、そこをあんまり捉われると、本当に市民にとって一番使いやすい庁舎はどうかという点で、非常に疑問が残ってしまうというふうに思っています。

やっぱり私は、高台地域に市の土地が一定程度あるのであれば、やはりそういうところに設置するというのが一番いいのではないかというふうに以前から言っているのですけれども、そんなふうに考えているところです。

○栗田政男委員 まず、財源を盛り込んだらどうかということで、財源を使うという予定で期限をつけるという意味だと思うのですが、そうすると自動的に来年度の3月末までに実施設計ということで、実施設計ということは、もうほぼ発注できる段階ということになるので、決定というふうに捉えざるを得ないと思います。

そこに持っていければということで、各委員から出ているように、そこに照準を合わせると、やっぱり拙速にならざるを得ないでしょうし、今年度、令和に入ってからそういう建てかえのいろいろなお話が出てきているわけですが、そういう中で2年の期間で仕上げてしまうという状況に違和感があるのも事実であると思います。

ただ、いろいろ市民も関心の高いことなので、いろいろとお話を聞いて、大方の市民は「やはり水のつくところに建てるのはいかなものか」というのが大方の人たちの正直な感想です。

ただ、私たちはそれに捉われる必要はないので、場所の選定も含めてしっかりと考えていかなければ

ならないのですが、50億が1人歩きをしているのですが、それはあくまでもこの現庁舎をもとにした、この面積をもとにした話なので、現実には永本委員がおっしゃるように、だんだん庁舎のほうに市民も来る必要が少なくなってくると、これは時代の流れなので当然だと思います。

そうすると職員だけのためであれば、極端な極論を言えば、プレハブでも十分機能するわけですね。

高機能なプレハブを建てて、それで十分でやっていけると、何ら問題もないわけですよ。

だからそういうことを全部考えたときに、必ずしも縛られて財源がどうのこうのと、確かに大事な話ですし、2割というのは100億ですと20億になりますから、大変な財源ですけども、それは規模が決まらぬとどうしようもない話ですし、どうも違和感を感じるのは、とにかく場所が決まらぬ中で議論もなかなか進まないのと、大きさも決まらぬし何も決まらぬので、それを架空の話として、また財源いくらでやっていくのだ、建設費は幾らでやっていくのだということで、非常に違和感を感じながら聞いています。

この庁舎は今の現行の自治法のシステムが、いきなりぼんと上がってくるといような状況下にあるものですから、このような問題が起きてくるので、我々も特別委員会を立ち上げて、委員間で主に議論をしているのですが、その委員間でのある程度の意見の一致を見てから進めていかないと、理事者側はもう勝手に進んでいますので、これはしょうがない話なのですね。今の現行法でいくとそういう形になってしまうのです。

それをだめだとか、いいだとか、修正させるとかというのは今の段階ではできないし、この委員会にもその権限はないですから、あくまでもやっぱり、我々がどうあるかという意見の一致を一つ一つ合議の上で決めていかないと、その意味では財源云々も大事な話なのですが、山田委員から言われたように、財源ありきだと決定してしまうよということ、ちょっとそういうふうと感じざるを得ないというか正直な気持ちなので、それも含めてもう少し議論をしたほうがいいかと思います。

○山田庫司郎委員 それぞれ委員から出ていますから、後で委員長がまとめてくれるのだと思いますが、いろいろな意見が出ていますから、一つにはならないなという気がしますが、各委員が思っているのは、財源はこの制度を利用できたら一番あ

りがたいというのはわかっているのですよ。

ただ、そこに立ちながらもどうしようかということも議論をしていかなければならないということも私たちの立場にはあるというふうに思うのです。

今建てれば、仮に10億の支援をもらえるから、50億かかるところが40億の支出で済むねという計算になってしまいますけれども、総合的に先ほども言いましたように、本当に使い勝手の悪いものを仮に建てたとして、向こう40年、50年使い勝手の悪い庁舎を市民が使うわけですから、そういう負の部分も、逆に言うと金銭にはなりませんけれども、考えていかなければならないという総合的な判断というのは必要だと思いますから、石垣委員が言うように、お金をやっぱりきちっと使いましょうということで一つになれば、そこをまず確認したいという思いはわかりますけれども、ぎりぎりまでやっぱり議論をして、どうしていくかということは私たちは考えなければならぬと思います。

永本委員も言っていました釧路の防災センターですが、私も見させていただいてまして、こんなところに建てたのだねというふうに思いましたけれども、確かにづくりも含めて、そして行政の部分もそこに入って、いろいろなことをされているようですから、あれは防災センターを役所機能も含めて利用できるように建てた建物なので、逆に今度、うちの市の庁舎が防災センター的なものの機能も含めて、もうちょっと大き目のものを考えるのなら、また補助か何かもらえて、財政的にどういう形になるのかという検討をしたのかどうかを含めて、理事者に聞いてみることも必要かもしれません。

ただ言いたいのは、もうここまで来ていますから言ってもしょうがないのですが、例えば美幌町もこの交付税の支援の制度も利用しているということです。津別町もこれを使っています。小清水町もそうだと思いますが、過疎債があるところはまた別にして、そういうことを早めにキャッチしながら動いてきた経緯というのは私はあると思うので、網走市の行政がそれを怠っていたというふうには言いませんが、もう後に崖が来ているのに、はいはいはいと押されても、ちょっとそういうことは厳しいなということも含めて、もう少しここは議論をさせてもらいたいと思います。

○松浦敏司委員 先ほど美幌町の話で、いわゆる町民との詳しい懇談というのはない中でやったというふうにありましたが、やはりあそこの特徴と

いいですか地理的なことがあって、津波の心配はほとんどないということで、だから後は耐震をどうするか、そして近くに場所もあるということです。

そういう点では、建てかえについて、場所について、町民の間でいわゆる意見の食い違いが相当あるということは、まず考えられないということです。

だからああいった形で何の問題もなく、すつとスムーズに進んだのだろうと思います。

しかし網走の場合は、地形が余りにも海に、現在地が海に近くて海拔6メートルですか。そして、今度の金市館跡地周辺は5メートルということでありますし、面積も狭い。

こんなことを考えると、やっぱり当然、市民の住んでいる場所によって、あるいは職場によって意見が違ってくるということで、だから我々もこの委員会を開いてもなかなかまとまらないというのは、そういうことなのだろうというふうに思います。

金市館跡地周辺が狭いということの委員の意見の一致は、それなりにあるというふうに思いますし、防災上は高いところがふさわしいということも、これも一致するのだろうと思うのです。

問題は、では市民的にどんなふうに合意ができるかという点が、なかなかうまくいかないという点で、そういう意味では時間がないという点、先ほど僕も言いましたように、やっぱり網走は出だしが遅かったというのが、やっぱりほかの自治体からすると1年ないし2年遅かったというのが、私なりの印象を持っているわけですから、そんなことも考えて、国の財政的支援が今のほかにないのかどうか、まだちょっと現時点ではわかりませんが、新たなものが出るのかもしれませんが、わかりません。

でもやっぱり、そんなことも含めて将来に禍根を残さない、将来の私たちの子や孫たちがしっかりと使いやすい、いい庁舎をつくってくれたねと言われるようなものにするためには、やっぱりもっと議論をしていく必要があるのだろうなというふうに思います。

○立崎聡一委員 今、皆さんそれぞれ御意見を述べられたとおりでと思います。

やはり使う必要性があるというふうに私は思いますので、皆さん一致しているというのは確かにわかります。

ただ時間的な問題などいろいろあると思います。

後世にどういう使いやすいものを残していくのか

という、その部分については今後の話で、場所じゃなくて、まず使いやすさというのは中身の問題になるので、その部分はある程度、前回話をしたときに皆さん一致しているのだろうなというふうに思います。

誰も後に悪いものを残そうなんていう気はさらさらないと思いますし、そこは議論していても、先に進んでいくいい結果が得られるのではないかなというふうには思います。

みんないいものを後世に残したいという思いは一つなのですけれども、ただ、その道筋に時間がかかるですとか、方法ですとかいろいろあると思います。

先ほど来、防災の話も出ていますけれども、そこは、こんな言い方をしたらおかしい話なのですけれども、どこら辺までということもあると思うのです。

それから使いやすさで先ほど狭いという、確かに僕もラルズ跡地を見たときは狭いかなというふうにも思いました。

ただ、現状と同じものを同じレベルでという考えではなくて、例えば全部を向こうに引っ越しという考えばかりではないと思います。そこは、ある程度軸となるような部分だけでもきちっと押さえて、そしてそこへ移設なり、新庁舎として考えるだとか、いろいろな方法はまだまだあると思います。

市民の使いやすさからいけば、先ほど松浦委員のほうから国道のお話がありました。

防災の話についても、国道と防災というのは、意外とというよりやはり重要な関連があるとは思いますが。

そこを考えると、これは余り言いたくない話なのですけれども、万が一災害があった場合に、1番最初にやはり庁舎というのが中心になるものであるというふうに、それは皆さん誰しも思っていることであるし、1番最初に国からという支援の手が差し伸べられやすい場所なのだろうというふうにも思います。

当然、元開発にいた人たちとも話をしたときに、国道も国道の桁数、要するに1桁なのか2桁なのか3桁なのかによっても違うよという話も聞きました。いろいろな話を聞かせてもらって、「なるほどね」ということもありました。

いろいろなことがあると思います。

皆さんそしていろいろなことを、この間いろいろ

調べてきたり、学んできたりしたのだろうなというふうに思います。

ただ、中間報告という一つの物差しというか、話を進めていかなければならないので、余りにも何と云うのでしょうか、ぼわっとしたままでは市民に対してもやっぱり申しわけないというのは、皆さんそれぞれあると思いますので、その辺はやっぱりある程度の妥協しろとは言いませんが、議論はしたほうがいいと思いますので、そこら辺はやっぱりきちっと見出していかなければならないのだろうなというふうに、個人的には思っております。

○山田庫司郎委員 ですから、結果的に財源の話を前面に出すと、皆さん共通認識に立てると思うのだけれども、建てる場所、建設地がおのずと決まるのだろうというふうに思うので、そういう導き方の表現は、私は中間報告ではしないほうがいいと思います。

だから、これは結果的にこれから議論する中で、まだどうなるかわかりません。そういうことだと思うのですが、財源を利用する考えで、特別委員会としては中間報告として報告します。

あとは立崎委員が言ったようなことを含めて、違う方法はあるかもしれません。

だから財源を使うということを前面に出したいという、こういうお話だったのですけれども、それはもう少しちょっと時間が必要だと思います。

○近藤憲治委員長 そのほかいかがでしょうか。

○松浦敏司委員 先ほど言いましたけれども、今、山田委員が言われたように、その財源の関係でなると、ここに余り縛られてしまうと、どうしても今の市が考えている場所にならざるを得なくなってくるというふうに思います。

あとは例えば、例えばの話ですよ。

この現庁舎の跡地も候補地として上がっているわけですから、その場合は、また新たな経費は当然、取り壊しや何かがかかります。

しかしそれは、どこに建てようと取り壊しはお金がかかるわけですから、そこは余り捉われなくていいのだろうなというふうに思うのと、ここであれば比較的いいのではないかという人も結構いるのですよね。

あそこに行くより、あそこに行くのだったらここで建てかえたほうが、今まであったのだしという、結構そういう市民も多いのです。

そういう意味では、ここであれば議会での表決も

今とは全然変わってしまうのですよ。

3分の2というのは関係なくなってきますから。

そんなような声もあるということですから、やっぱり慎重に議論したいと思います。

○永本浩子委員 今の現庁舎のここという話も出たところなのですけれども、取り壊しにはどちらにしてもお金はかかりますけれども、一遍にそれが、取り壊しと、引っ越し代と、建設費用と、もう1回の引っ越し代というのが一時にかかるのと、やっぱりまずは建設をして、次に取り壊しをしてというのでいくのとは、お金のかかり方がやっぱりかなり違うというふうに私は思っていて、そこをやっぱりこの現地の場合は、非常にちょっと踏み切れないというか、そこがひっかかるところなのですね。

そして松浦委員とか山田委員がおっしゃっている高台だとすると、具体的に言うと皆さんで見えて、除雪センターと球技場のところは話にならないということで、そうすると残るのは潮見の市営住宅を取り壊した後か、もしくは市営球場を取り壊してということになるかと思うのですけれども、市営球場に関しては、なかなか都市計画の用途変更とか、北海道との整合性とか、今まで使っていた人たちをどうするかとか、さまざまな問題がやっぱりかなりハードルが高いということが、前回の委員会でもわかったところだと思うのですね。

また、潮見の市営住宅となると、やはりここも建て壊し、解体がまずさきになるということで、その費用プラス時間軸でいくとかなり先に、今住んでいらっしゃる方もまだいるわけなのでね。

そうなると高台、高台と結構いろいろな市民の方から言われますし、本当に高台にぴったりの場所が本当にあれば、すごくいいなと本当に思うのですけれども、意外とありそうでないのではないかなという思いがするのですけれどもどうでしょうか。

○松浦敏司委員 確かに市営球場については利用者がいるということで、それは私もわかっていて言っているのですけれども、ただやっぱり本当の意味での市民的にどうしても必要な庁舎は、ここだというふうになれば、やっぱりその利用者も理解をしてくれると思います。

以前の議論にもありましたように市営球場が二つあるというのは、これは余りないのですよね。だから網走は二つあるという点で、やっぱり使い方もあるし、今の駒場の市営球場の場合は軟式しかできない状況なのですね、硬式ができないのです。

だからそういう意味では、現在は一定の限られた人たちしか野球としては使われていないという点で、そういう意味では理解を得られる努力をすれば、できるのではないかというふうに思うのと、あと潮見の市営住宅のあそこについては、確かに今は入っていますけれども、いずれにしても新しく住宅が出来て、そこに引っ越すという作業はあるわけですから、いつまでもそこにいるというふうには、多分ならないのだらうというふうに思います。

それと、この現庁舎跡地にした場合は、引っ越し費用が確かに1回分ふえます。

しかし、それが後世の市民の負担になるほど、お金がかかるかと言えば、そうではないだろうと思います。

何億もかかるわけではないので、そういう手間は一定程度かかるにしても、それはそんなに問題はないのだらうなというふうに私は思います。

○栗田政男委員 前回のときもお話をしたのですが、それは最初から僕も思っているのですが、現庁舎建てかえが原則だと私は思っています。

そうすると、引っ越しはどこの役場の建てかえをした場所でも全部聞いてきていますけれども、当然引っ越し作業は、業者が入ってやるということは必要になってくるでしょうから、その間の仮庁舎というのが必要になってくるということで、それも全部クリアして各地自治体は全てやっていると思います。

また、法的なことも松浦委員のほうから言われたように、当然この場合ですと、決め方がまた変わってくるということで、場所を変えるということで特別な議決が必要になるということで、そこが一つのハードルになるのではないかなという気が私はしています。

となると、今の理事者側の進め方を見ていると、いきなり9月ごろにぼんと上がってきて、ゼロか100かの判断をしなければならないという状況が生まれそうな気がして心配でならないのですね。

それで本当にいいのかなという気がしています。

理事者側の説明を聞きながらも、庁舎機能しか入れないよということで、複合的なものは一切考えないという一つの考え方、また今の想定されている場所については、商店街の商工会議所等々の申し入れもあるということです。

では具体的にその団体がどういう動きをしているかというのは、正直言ってまだ見えていません。

そこで現実に振興組合の組合長とも話をしましたが、具体的には何も決まっていないということですから。来てもらえば、それから考えましょうというふうなスタンスであったように感じております。

それではやはりちょっと弱いのかなと、申し入れをしている以上は、こういう計画があつてこのようにやっていくので、ぜひとも頼むというものがないと、なかなかそのインパクトもない申し入れなのかなという気がしてならないのですね。

それは私たちがどうのこうのと言える立場にはないですから、やはりそこにかかわる人たちが、しっかりと自分たちの自助努力で、しっかり思いを伝えていただければ、大部ニュアンスも変わってくるのかなという気がしてならないような気がします。

場所で先ほどプレハブという極論を言いましたが、まさか庁舎がプレハブというわけにはいかないのでしょうかけれども、それぐらいシンプルなものをつくっていくのか、今の予定されている場所ですとかなり高層になります。高層というのは、やはりいろいろなコストもかかるし大変なことなのですね。

網走市にはそんなに高層のビルというのは、ドミーインだとか四条の道営住宅とか、あの辺が一番高い高層階なのですが、そういうものに匹敵するぐらいの高いものが本当に必要なかなという部分も心配はしています。

財源は何度も申し上げますが、使えるのなら使ったほうが良いと思います。ただ、使うことありきで進めてしまうと議論が萎縮してしまうので、なかなかそれも厳しいのかなと今の段階では思いますし、立崎委員のほうからは「ぼやっとしたものになってしまう」と、中間報告はぼやっとしても何にも問題はないですし、ぼやっとしたものしか今は報告できないのが現状ではないかなというふうに私は思っています。

○近藤憲治委員長 そのほか発言ございますか。

○石垣直樹委員 皆様からいろいろな御意見を伺いまして、ほぼほぼ私も同意なのですが、この緊急保全債を使うと自動的に場所が決まってしまうというのが、本当にそうなのかなという疑問点がございます。

昨年来10回のこの委員会でございますが、数を重ねてきております。

場所の視察も行いました。

今の段階でこの保全債を使うと、自動的に金市館跡地になるとは私は思わないのですけれども、逆に

どの程度の時間があれば、場所の決定までいけるのか、あとできればこの緊急保全債の期限が国の方で延ばしていただけるのだったら、もっと議論をして最適な答えを出せるのかもしれませんが、現状そうとは限っておりません。

残された期間の中で、場所の決定の一致を図る努力をする必要もあるのかと思います。

○栗田政男委員 言わんとしていることは何げにわかるような気もするのですが、現実論として設計も全部含めてもう進んでいるのですね。進んでいる中で、あと1年しかないのですよ。1年しかない中で、新しい場所の選定、設計。実施設計ですから、実施設計とは発注できる状態にするということです。1年間で場所をいろいろ全部調べてやるというのは現実的には不可能なことなのですね。

もちろんわかっていらっしゃって言っているのだと思いますけれども、そうするとおのずと今進んでいる状態で、もう既にコンサルも入っていますので、大方の青写真はでき上がっているでしょうし、現実に見た方もいらっしゃるので、そういうことも含めると、ありきでいってしまうというのが現実なのですが、なかなかそのお尻が決まっているから、それに向けて進めていくというような方法にどうしてもなってしまうというのが現状ですから、例えば松浦委員の市営球場というの、僕も将来的な本当の意味からいうと一番いいベストな高台ですし、全てが集約できますし、駐車場の問題も全部クリアできるし、あそこを使うのが最大のやっぱり成果だとは思いますが、それにはやっぱり長い時間が必要です。

いろいろ所管がえをしたり、いろいろコンセンサスを取りながら進めていく中で、今あるものもどうするかという議論もしなければならぬ、そして当然、総合体育館の建てかえも、その中では議論になってくるでしょうし、あの一帯が一つの大きな構想で考えていかなければならないという壮大なものになってくるので、やっぱりまあ少なくとも二、三年はかかってしまうというのは、現実論だと思うのですね。

今、理事者側で進めている場所がほぼほぼ向こうで提案してくる決定事項で進んでいますから、設計予算をつけて進んでいる現実があるので、そうすると3通りで進めましょうということは現実には可能かと言ったら、全部お金がかかる話なので、なかなかそれも現実論ではないのかなという気がします。

だからそれを使えるのなら、誰が考えたって使ったほうがいいに決まっているので、ぜひともその方向でいきたいのですが、やっぱり最終的には場所が引っかかってくるのかなという、場所を決めない限りは何も進まないというのが僕の結論です。

○松浦敏司委員 石垣委員のほうから、いわゆるこの国の財源を使うとすれば、おのずと今の金市館跡地周辺にならざるを得ないというふうに私どもが言ったことについて、そうではないのではないかということですが、ただやっぱり現実を見ると、今市は9月議会までに提案して、そして議会の承認を得たいということで動いているということです。

そうすると、ではその9月議会の中で、仮にですよ。否決になった場合、ではそれからとなったら、どうやってもやっぱり間に合わない。

両論なり幾つかの案があって、そのうちどれを選びますかと言うのならまだしも、今はとにかく金市館跡地周辺という形で市は進めているわけですから、そうすると、ほかのところになれば、どうやってもやっぱり間に合わないだろうと私なりには感じています。

それから市営球場のことについてですが、今、栗田委員が言われたように、総合体育館はいずれにしても建てかえが、市庁舎が終わって何年後かはわかりませんが、内部ではもう既に市営球場のところに移すという案もあるみたいです。

まあ確かにあそこしかありませんから、そうなるといずれにしても、あの市営球場というものは結果としてなくなるのですよ。

だから、そういう今後の計画なんかも、いろいろ導水管がどうのこうのと、以前の委員会で建設港湾部長が言っていましたけれども、それは彼ら自身もわかっていて、将来移すところと言えば体育館はあそこしかないのです。移す場所はないのですから。

ただ、いわゆる運動公園法から言えば、法的手続きは要らない、いわゆる内部での建てかえなので、そういうことはありますけれども、いずれにしても市営球場はいつまでも運営されるというふうには、多分ならないのだろうというふうには私は思っていますので、そんなことも含めて考えていく必要があるなと思います。

○山田庫司郎委員 石垣委員にちょっと伺いたいのですが、「財政支援をやはりここで決めたとしたら、今のラルズ周辺跡地にどうして決まってしまうのですか」という疑問を投げかけられましたけれど

も、松浦委員が言ったような、例えば野球場というように、こういう新たな適地として提案があったのですが、あとは私たちはどことも言っていませんから、市が比較した5箇所の部分で、桂町と昔の除雪センターについては、ここはちょっと使い勝手があるですねという形で整理した経過がありますけれども、あと3カ所についてはどうだという議論をしていませんが、その中で比較検討してきた結果で、市のほうから出てきているのが今の場所なのです。

だから、潮見の部分は壊すのに時間がかかります。

ここは、今の現状ある駐車場にもし建てることのできるのなら、何もここを壊さなくて建てられるのかをまだ議論していませんけれども、逆に、建てるのなら向こうと同じような面積で、その角にでも建てれば、ただ位置がいいかどうかの議論もある。

だから、そこはまた新たな議論になりますけれども、結果的に新しいところの議論もこれからするのかということになれば、また別かもしれませんけれども、今示されている中で整理した3カ所の中で整理すると、お金の支援をもらうとなると、今の場所しか本当なくなるというふうに思いませんか。

そうなったときに、お金を使いたいというのは、非常に失礼な言い方だけれども、市の考え方だと思います。

財政が厳しいから、この支援をもらって、庁舎を優先して建てたいというのは考え方だと思いますけれども、やっぱりお金が先に入っているのだと思うので、あそこしか指定できなかったのかどうか、そういう経過はわかりませんけれども、結果的にそういう形でできているのだというふうに思っています。

だからお金は大事ですよ。大事ですけども、どうなのだというのをよく考えなかったら、先ほどから議論しているように、今のところがどうかという議論の場所ではないけれども、本当に横から入って横から出ていく。

6条側には建物と民地があります。横にも、民地と建物があります。その空いたところにその信金本部側の空いたところに建てるのですよ。

9階になるのか7階になるのかはわかりませんが、9階建ての話もありますけれども、今の7,000平米をクリアするのなら、9階建てなら約800平米、ワンフロアが800切るぐらいあれば、20メートルと40メートルの、それか30メートルか何ぼの、真四角かどうかは知らないけれども、それくらいの建

物がぐわーっと上がるだけなのです。

それで、立崎委員も言っていましたが、機能だけでも考えるのなら、割り切るのなら、どこに建ててもいいのかもしれない。

でもやっぱり庁舎というのは、市のやっぱり50年60年の大計の一つですから、環境整備して噴水をつけるとかそういうのではなくて、やはり使い勝手のいい形で設置場所を考えるのが理想かなというふうに思っているの、まだそこで、財源の支援をもらうということをここで決めるのは、ちょっと拙速ではないかと思うのです。

そこで「いつまでなのですか」と石垣委員が言っていましたが、私は何も期限を切ることはないと思います。

最悪になったら、9月に設置条例の提案があったときに判断をする。

特別委員会としては、一つにならなかったら、それはしょうがないのです。ここの対応になるわけですから、そこに向けてやっぱり大事なこと、財源も使いましょうということは皆わかっているのです。それを使うためにどうするかと努力しながらも、だめな場合のことも、いつかの時点で考えていかなければならないし、早目に反対ということもあるかもしれないし、そこはやっぱりここの委員の話は、会派の立場も含めて、個々の立場も含めての議論の中で進んでいくので、最初からそこにたがをはめない方がいいと思うので、逆にちょっと石垣委員に逆質問をしたけれども、私もそういう見解なので、もしコメントがあれば。

○石垣直樹委員 皆さんのおっしゃることもよくわかります。

金市館以外の議論が足りないという部分も十分にわかりました。

現状、今理事者側が進めているスケジュールで9月に上がるとすると、ほかの地域、現在の場所、野球場にしても時間が足りないのだという話はよくわかりました。

本当にこの緊急保全債を使えば、本当にいいということは皆さんに承知していただいていると思いますけれども、なかなか現状では、中間報告に記載するのは難しいのかなというところで納得いたしました。

○栗田政男委員 ちょっとわかる方がいたら教えてほしいのですが、僕もちょっと把握していないのですが、今予定されているあそこの予定地に役所を集

約したものを全部入れてしまうのか。

立崎委員がちらっと言っていたように、ここはここで機能を残しておいて、向こうにも違う別の所管が行くのかみたいな分散型でいくのかというのは、誰かわかっている方、例えばエコーセンターの社会教育もこっちに入ってくるのか、保健センターも入ってくるのか、その辺が全然まだ見えていないというのか、どういう環境なのか。

市庁舎の機能だけを入れるという話は理事者の説明から聞いたのですけれども、どういう集約をしてきっちり効率化をやっていくのかというのはまだ聞いていないのですよ。

これは、すごく大事なこと。

○近藤憲治委員長 暫時休憩いたします。

午前10時53分休憩

午前11時01分再開

○近藤憲治委員長 はい、それでは再開をいたします。

栗田委員の発言がございましたけれども、その他委員の方から何か発言はございますか。

○山田庫司郎委員 非常に細かいことで、文章の成り立ちの話をしたら申しわけないのですが、文書というのは最後に来るのが非常に重たくなるのです。僕はそう考えています。

それで5番目ですが、内容はいいのです。「市では、新庁舎建設費用を現時点での概算で約50億と試算している」と、「今後必要となる維持管理費などを含め、財源確保のための」こういう形できて、で「重要であり」と、新庁舎何々で「十分留意することが必要である」ということで終わるのですけれども、私の気持ちとしては、逆に言う「財源確保のためのあらゆる可能性を研究検討していくことが重要である」で終わりたいのです。

だから、あの皆さん同じだと思われるかもしれないけれども、それで細かいことだと前置きしましたが、「新庁舎建設がこうで十分留意することが必要である」というのを前にして、私のこだわりですが、もし各委員が了解してくれるのであれば、文書の事なので「そんなことは同じだ」と思う方もいるかもしれないけれども。

○近藤憲治委員長 それは次回まで正副で預からせていただきます。ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、これをもちまして本日の新庁舎建設特

別委員会を閉会させていただきます。

御苦勞さまでした。

午前11時02分閉会